

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月29日

## I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献)
○コロナ禍で色々なことで努力してもらっているという意見を頂いた。 ○「子どもを育てる」という視点で地域と学校との関わりを増やしてほしいとの要望を受けた。 ○学校の様子が分からないので、様子が伝わるように工夫してほしいとの意見を頂いた。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.3%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は84.0%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○昨年度も、コロナ禍のため、児童生徒が対面して交流することができなかった。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる
		中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実

## III 自校

ミッション
社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成

学校教育目標
自立貢献の生徒の育成

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>○「読書を通して、考えの整理や伝える力が高まっていると思う」の肯定的評価は86.8%であった。生活の中で本に触れる機会が減少してきている中、朝読書や休憩時間中に本に親しむことができていない現状がある。そのため粘り強く問題を読むことが難しく、読解力や想像力が不十分な生徒が多い。</p> <p>○学習に意欲が向かない、生活習慣の乱れなどから欠席する生徒が増加しており、不登校生徒出現率が6.4%と高くなっている。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>○「授業では、自ら学ぼうとしている」は94.3%、「授業内容はよくわかる」は87.3%、「授業では、自分の考えを共有する場や、仲間の考えから学べる場がある」95.3%と肯定的に捉え学習に取り組んでいる反面、昨年度の全国学力学習状況調査では国語正答率65%(全国平均69%)、数学正答率43%(全国平均51.4%)、理科41%(全国平均49.3%)と差が見られる。また、昨年度の学力の伸びを把握する調査では、第1学年の国語正答率52.4%(市平均56.0%)、数学正答率42.7%(市平均52.2%)で、第2学年は国語正答率51.4%(市平均52.2%)、数学正答率44.7%(市平均44.6%)、英語44.4%(市平均48.3%)と差が見られる。生徒の肯定的な捉えを学習意欲に繋げるとともに、「わかる」で終わるのではなく「できる」にしていくための授業づくりに努める。</p>

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりの心・感謝の心 (地域貢献)
めざす子ども像	課題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える	お互いを認め、伝えあい、協力できる	工夫や努力で、成功させるために果敢に挑戦できる	いろいろなもののおかげで自分ができることを実感する

研究	テーマ	生徒一人ひとりの深い学びを実現するための主体的、対話的な教育活動の工夫
	内容等	○言語能力・情報活用能力の育成に向けた、単元指導計画の研究 ○教育活動全般を通じて育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)の向上
めざす授業の姿	<p>○どの生徒も主体的に課題を見出し、解決策を講じながら、より深く学びに浸ることのできる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理し、論理的に表現できる場の設定。</li> <li>・他者の考えや意見に共感し、尊重できる集団づくり。</li> <li>・ICTを活用し、得られた情報を吟味し、正しい情報をわかりやすく伝える場の設定。</li> <li>・問題発見・解決能力育成に向けた、PDCAサイクルの充実。</li> <li>・各教科・領域がSDGsの視点で結ばれ、学びを通して自分、地域・社会の現状や将来を考えられる場の設定。</li> </ul>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東朋中学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	達成 評価	改善 評価	改善 方針	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	達成 評価	総合 評価	改善 方針	
7	主体的に学ぶ授業づくりの推進	★継続	自ら課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究に視点を置いた研究や研修を推進することで授業づくりの充実を努める。</li> <li>考える必然性のある課題を掲示し、全教職員が主体的・対話的で深い学びのある授業を展開する。</li> <li>生徒が自ら目標を決め、自ら学ぶ場を創造する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業内容はよくわかる」90%以上</li> <li>各種調査の市平均以上</li> <li>全国学力学習状況調査 学力の伸びを把握する調査 実力テスト</li> <li>英検BA、各種検定の導入と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案検討や授業見るとーク週間を実施するなど、教職員同士で教材や授業作りについて話し合う時間を設定した。</li> <li>全国学力学習状況調査 国語正答率 70%(市 66%) 数学正答率 47%(市 45%) 英語正答率 36%(市 38%)</li> <li>1 学期末実施生徒学習アンケート「授業内容はよくわかる」88.8%</li> <li>東朋チャレンジと東朋カップを導入した。東朋チャレンジは各種検定を学校で受検することができるようにした。東朋カップでは全学年が共通の漢字・計算・英単語のテストに取り組みすることで、学びの場を創造することができた。(英検 108名、漢検 76名、数検 14名)</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種調査の結果分析をし、職員同士で共有することで授業改善を図る。</li> <li>1 学期末に実施した生徒学習アンケートの結果をもとに、職員面談を行い、授業改善への個別支援を行う。</li> <li>全国学力学習状況調査の問題からどのような授業が求められているか、考える必然性のある課題掲示について研修を行う。</li> <li>教科担当だけではなく、学活等でも東朋カップに向けて取組をすることで、学校全体でできることがおもしろいという気持ちを高めていく。また、東朋カップの内容を当該教科で学習する内容と結び付け授業への理解が深まるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語検定第1学年 合格率 85.4%</li> <li>学力の伸びを把握する調査 1 年生正答率 国語 58.1%(市 61.4%) 数学 44.8%(市 53.6%) 2 年生正答率 国語 54.1%(市 57.3%) 数学 52.3%(市 54.1%) 英語 41.2%(市 46.5%) 3 年生正答率 国語 49.9%(市 50.9%) 数学 53.1%(市 55.1%) 英語 39.8%(市 43.0%)</li> <li>2 学期末実施生徒学習アンケート「授業内容はよくわかる」87.6%</li> <li>1 学期末実施生徒学習アンケートの結果を基に、授業改善や授業見るとーク週間を引き続き実施した。</li> <li>英検 IBA 合格レベル率 1 年生 5 級以上 61.3% 2 年生 4 級以上 31.9% 3 年生 3 級以上 47.0%</li> <li>英検 IBA を導入したことが多くの生徒が英検に挑戦するきっかけになり、学びの創造につなげることができた。(英検 170名、漢検 109名、数検 14名)</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業内容はよくわかる」の数値の改善に向けて、各教科でアンケート結果の分析をする研修や、午後学活で各教科の既習事項の定着を図る取組を行う。また、東朋ミニカップでは音楽の記号テストなどを行い、生徒が楽しみながら基礎学力を定着できる取組を仕掛けている。</li> <li>外部講師の講演を積極的に取り入れたことで、いろいろな面から生徒の興味関心を高めるような取組ができた。引き続き、継続していく。</li> </ul>
6	自己肯定感・自己有用感の向上	継続	一人ひとりとの承認欲求が満たされる集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>午後学活での班会議の充実</li> <li>全教員が各生徒への肯定的評価を積極的に行う</li> <li>生徒会を中心として生徒が企画・運営する活動を増やしていく。</li> <li>不登校生徒への対応の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」90%以上</li> <li>「先生は、自分のことを見てくれている」95%以上</li> <li>不登校生徒出現率が全国平均以下(諸課題集計表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;1学期アンケート結果より&gt;</li> <li>「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」94.9%</li> <li>「先生は自分のことを見てくれている」96.0%</li> <li>&lt;本校調査より&gt;</li> <li>不登校生徒数 15名 (35%) (9月末現在)</li> <li>(昨年度全国平均 60%)</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人との面談を通じて個々の課題や困り感を把握し、迅速に必要な機関と連携を取りながら対応していくことで、生徒・保護者にとって相談しやすい環境と信頼関係を築いていく。</li> <li>個に応じた対応を充実させていくために、細かな見立てと情報共有、他機関との連携を密にしながら、学校での生徒の居場所や学校と家庭の繋がりを絶やさないようにしていく。</li> <li>外部専門機関との積極的連携を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2学期アンケート結果より&gt;</li> <li>「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」94.7%</li> <li>「先生は自分のことを見てくれている」94.4%</li> <li>&lt;本校調査より&gt;</li> <li>不登校生徒数 24名 (56%) (12月末現在)</li> <li>(昨年度全国平均 60%)</li> </ul>	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの結果を利用し、それぞれの生徒に合った対応を学年・分掌で共有し、必要に応じて個票にまとめながら最適な対応を実施していく。</li> <li>SC 等、第3者からの見立ても行い、一面的な生徒理解ではなく、多面的・多角的な生徒理解に努めてきた。今後はさらに連携を進展させ、継続していく。</li> </ul>
9	安全で安心できる学校づくりの推進	継続	生徒・保護者の学校満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの心に寄り添った生徒、保護者との相談体制や学級、学年の情報提供の充実を図る。</li> <li>1 日の時間外勤務時間を2時間以内にするよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP、Classroomを用いた情報発信</li> <li>「安心して通っている」生徒100%</li> <li>「安心して通わせている」保護者100%</li> <li>勤務時間外在校時間が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、学校の様子を色々な方法によって保護者に伝えていく」86.6%</li> <li>「安心して通っている」生徒 93.4%</li> <li>「安心して通わせている」保護者 96.8%</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな情報を発信する際にタイムリーに発信をする。</li> <li>生徒一人ひとりの心に寄り添えるよう、面談を引き続き実施していく。</li> <li>参観日等「開かれた学校」を意識し、いつでも相談できる体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、学校の様子を色々な方法によって保護者に伝えていく」90.2%</li> <li>「安心して通っている」生徒 94.3%</li> <li>「安心して通わせている」保護者 96.7%</li> <li>月 45 時間以内職員割合 99.1%</li> </ul>	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>発信内容や方法を精査し、時機を逃さず発信していく。</li> <li>引き続き生徒、保護者の相談体制を整えていく。</li> <li>月、週単位での仕事予想量を提示して計画的な業務遂行を実現する。</li> </ul>

			うに自己管理を徹底する。	月45時間以内の職員 100%	月45時間以内職員割合 (88%→100%→100%→ 100%→100%→97%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務時間の見える化を意識した掲示物を作成する。</li> <li>・業務の精選を引き続き行うとともに、校務分掌表を再編成し、仕事の再分配をする。</li> </ul>								
--	--	--	--------------	--------------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。